

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第3号(7月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に発生に注意》

【ぶどう】	べと病
【バラ科果樹】	クビアカツヤカミキリ
【なす】	うどんこ病
【野菜類・花き類】	ハスモンヨトウ

《7月の予報概要》

A 水稻

品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻			いもち病		
		縞葉枯病(ヒメビウンカ)			
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

B 果樹類

品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病	
				褐斑病	
				晩腐病	
				チャノキイロアザミウマ	
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般	果樹カメムシ類				

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病		
			灰色かび病		
				うどんこ病	
			アザミウマ類		
トマト			葉かび病・ すすかび病		
			灰色かび病		
				コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)	

D 花き(きく)

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き(きく)			黒斑病・褐斑病		
				白さび病	
		アザミウマ類			

E 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類			シロイチモジヨトウ		
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
			アブラムシ類		

《(参考)7月の気象予報》

気温	低い (30%)	平年並 (40%)	高い (30%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(大阪管区气象台6月24日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月の巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植後の余り苗を水田に放置しない。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	やや少ない～ 並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年11月の巡回調査では、ひこばえで成虫がほとんど確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植前までに水田、畦畔の除草を行う。 ・ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であるため、ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素質肥料の過用を避ける。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水深4cm以下の浅水管理を行う。 ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 ・田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
褐斑病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害葉は園外に持ち出し処分する。
晩腐病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内への雨滴の侵入を防ぐ。
チャノキイロアザミウマ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる葉、枝、果実を除去し、適切に処分する。 ・薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前が効果的である。 ・降雨前に袋かけを行い、雨滴による感染を防止する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・被害果実や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・発生地域では、成虫対象の登録農薬を散布する。 ・ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけ次第ハンマーなどで殺虫する。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨時期における防除が重要である。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。

5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ネギアザミウマの発生が平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にネギアザミウマがいちじくを加害する。 ・果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。 ・ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。 ・光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

6 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿になる施設栽培で発生が多いため、適度に換気を行い、湿度を下げる。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。 ・20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 ・QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

うどんこ病	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年より多かった。 ・7月の降水量は、平年並か多い見込みである。 ・7月の日照時間は、ほぼ平年並の見込みである。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。 ・QoI剤（アミスター、ストロビー）、SDHI剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。 ・すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類 (トマト黄化葉巻病)	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。 ・ハウス栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。

		<ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
--	--	--

D 花き（きく）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。 ・被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
白さび病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。 ・被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。 ・施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。
アザミウマ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・品種により被害の現れ方に差がある。

E 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	やや多い～多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
アブラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mailserVICEmousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)